

Small Talk台本②（第6時・第7時のはじめ5分）

進め方（文科省の型）：帯活動として2時間に1回。6年はペアで伝え合うことを中心に、相手を替えて1～2分×2回。1回目のあとに中間指導（下の「ことばの補給」）を挟む。なりきりではなく**本当の気持ち・本当の出来事**を話す。

話題1 先生に聞かれてばかり（第6時）

板書：What animal do you like? / How about you? [生き物カードを黒板に]

T Where do sea turtles live?

ウミガメはどこにすんでいる？（1人に答えてもらう）

S They live in the sea.

（早見表を見ながらでOK）

T Nice! What animal do you like? ... Where do they live? ... Are they big?

（テンポよく3つ続けて質問する＝今日の仕掛け）

T Hmm. I ask, you answer. I ask, you answer. Ask me one question!

さっきから先生ばかり聞いているね。1回でいいから聞いてみて。

S What animal do you like? / How about you?

（どちらでもOK。Me? I like penguins! と喜んで返す）

つまった子への助け舟：この5分の仕掛けは「先生が質問しからない」こと。会話は止まっていないのに、聞かれたことに答えるだけで終わる。返す1文は How about you? が最短。第8時のテストの続きは、この時間にある。

話題2 あした できること（第7時）

板書：①We can save the sea! ②We can pick up trash. → どっちが あしたできる？

T Look. Number one: We can save the sea! Number two: We can pick up trash.

（2つとも板書。①は大きな宣言、②は小さいこと）

T Which one can you do tomorrow? Number one or number two? Hands up!

あしたできるのはどっち？手をあげよう（ふつうは②が多い。わけは日本語でOK）

T Yes! Small is OK. What can you do tomorrow? Tell your partner.

小さくていい。あした何ができる？ペアに伝えよう（1～2分×2回）

S We can pick up trash. — Me, too! / Good idea!

（相づちが1つ返せたら成立）

つまった子への助け舟：大きな宣言より、次の日に残るのは小さいほう。ここで声に出しておくと、第7時の活動3で☆をつける手が止まらない。△出させるのは学校・教室でできることだけ（家でしていることは聞かない）。

中間指導 1回目のあとに全体で（ことばの補給）

1回目のあとに全体で：「先生に質問を返せた人？」→ 返せた1文を黒板に1つだけ書き足す（How about you? / What animal do you like?）。ふやすのは1つだけ。書き足した文は第8時のテストの日まで消さない——先生の質問が続いて止まりそうになったとき、目を上げれば見える場所にあることが大事。

対話を続けることば 黒板横に掲示しておく

はじめる	Hello! / How are you?
くり返す	Soccer? Me, too!（あいての言葉をくり返す）
ひとこと感想	Nice! / Wow! / Really? / Good!
たしかめる	Pardon? / One more time, please.
さらに質問	How about you? / Why?
おわる	Thank you. / See you!

先生へ

- ・6年のSmall Talkはペアで伝え合うのが中心。先生の話は1分で切り上げ、ペアの時間を確保する
- ・質問を返せなかった子は取り上げない。返せた子を1人だけ取り上げて終える——「返してもいいんだ」が伝わればこの5分は成功
- ・話題2で出させるのは学校・教室でできることだけ。家でしていることを聞くと、答えられる子と答えられない子が家の事情で分かれる

